

カツオ県民会議 第9回情報発信分科会 議事録

2018年3月26日(月)午後4時～ 土佐料理「司」

※別紙に出席者一覧

1 宮田座長の挨拶

- ・転勤に伴う入退会の報告

県漁業振興課 梶 達也氏（水産試験場古満目分場へ転出）

- ・オブザーバー出席の紹介

サニーマート 出水 佐知さん

（サニーマート営業企画部地域交流マネジャー）

- ・新規入会の申し込み

黒笹委員からの紹介で(株)林釣具製作所社長、久場 幸信氏が入会を希望。

幹事2人の推薦（県民会議規約）が得られ、情報発信分科会への入会決定。

2 議 題

◇和歌山県すさみ町サミットの報告（竹内副座長、福田記者から）

- ・まず、竹内 太一氏から。

3月24 - 25日に「全国カツオまつりサミット」が開かれ、高知カツオ県民会議の活動について話をしてきた。このサミットはカツオ資源の研究で知られる二平章さん（元茨城県水産試験場）がサミットの構成など全体をコーディネート。全国のカツオ漁関係者らが集まり、高知県からは高知新聞社の福田仁記者や中土佐町の池田洋光町長、黒潮町の漁協婦人部関係者らが参加した。

当県民会議の取り組みについてはホームページ（HP）を使って説明。昨年2月の設立までの経緯や組織の構成、国会議員も含めて産・官・学が一体となって県民世論の喚起を目指していることなどを紹介した。また高知カツオ県民会議のロゴ制作、海外巻き網漁業者との交流、国内一本釣り漁業者との連携も考えていることにも触れた。

このサミットには主として漁業者が全国から集まっていたこともあり、漁船の燃料費高騰や新船建造費の調達難、エサの生き餌確保が困難になっており、しかも値段高騰などのトリプルパンチで持続可能な経営が難しい状況にあることが取り上げられた。漁業者の経営問題は全国共通で、ここにも目を向けなければならないと感じた。この問題にテーマを絞った勉強会を新年度にやったらどうか。船主らをゲストに呼んで実情を聞き、我々も現状認識を共有し、何ができるかを考えるきっかけにしてはどうか。

また、マグロ・カツオを巡る国際交渉を研究している真田康弘さん（早稲田

大学教員講師、昨年9月に情報発信分科会主催の勉強会に招聘)と会場で会った。今年8月に韓国で開かれるWCPFC科学委員会、9月に日本である同北小委員会にも参加するようなので、その内容を伝えてほしいと頼んでおいた。

このほか、鹿児島県と宮崎県の船主組合の会長や全国近海カツオ・マグロ漁業協会の三鬼即行会長も参加しており、当県民会議の活動に関心を持っていた。カツオ資源の持続性に危機感を抱いているのは我々と同様で、具体的にどうやって高知と連携していくのがいいのか、投げ掛けがあった。

・続いて福田仁記者から。

シンポジウムでは来賓として和歌山県知事があいさつをしたが、カツオ資源の現状を正確に把握しているという印象を持った。和歌山県でもカツオの漁獲が激減しており、その要因は熱帯海域での大型巻き網船などによる網漁ではないかと話していた。カツオ漁でも国際的なコントロールの必要性を主張、特にここ1、2年は水産庁へ熱心に要望しているようだ。

会場の片隅では、和歌山県水産試験場の職員2人によるパネル展示コーナーがあった。和歌山県の伝統漁法、カツオ「ケンケン漁」(引き縄漁)の漁法を解説した手作りパネルや長期不漁のデータなどをビジュアルに分かりやすく示したパネルを計8枚展示していた。また、パソコンで「ケンケン漁」を紹介する動画を常時、流していた。「人が集まる機会を有効に活用し、予算と労力をかけなくてもできることがある！」と大変勉強になった。

和歌山県が国に提出した本年度の「提案と要望」は、われわれが抱えている状況や課題と重なり、和歌山県と一緒にやれることがあるのではないかという気がした。水産庁への提案も踏み込んだ内容で、カツオ資源の早期回復には太平洋熱帯海域における漁獲の80%を占める巻き網漁の規制強化が必要だと指摘。具体的には大型巻き網船の漁期を短縮させる国際的な規制強化をWCPFCに引き続き提案していくとしている。

シンポジウムの最後には、「黒潮の恵みであるカツオ資源の再生を目指し、資源にやさしいカツオ漁と伝統の食文化を守り、輝く地域漁村の未来をつくろう」という和歌山アピールを決議した。カツオ資源問題を長年にわたり研究してきた二平さんの20年来の思いが込められていた。

◇県民会議HPの一部修正について(共同通信 西野支局長から)

HPの一部修正は現行の予算枠で行った。修正に際しては、その狙いや意図するところなどについて、HP立ち上げを依頼した業者の担当者と分科会のメンバーがしっかり協議した上で修正作業をしてもらった。

具体的にはメインのタイトルなどのイラストや写真をロールさせるようにし

たほか、フェイスブック、新着情報などコンテンツの充実だ。かねて課題だったフェイスブックをどう活用するか、インスタ映えするような仕掛けをどう図っていくか、といったHPの今やスタンダードな水準にようやくたどり着いた。フェイスブックの写真を継続的にアップするに当たっては、日和崎JC理事長の尽力を得た。またデジタルアーカイブに入ると、カツオ一本釣り漁はもとより漁業問題への入門書的な「漁（すなどり）の詩（うた）」（2009年 高知新聞発行）が全文で読める。SNS発信グループのメンバーはブログに投稿できるようにパスワード、IDを共有している。

HP関係以外では、当県民会議の紹介パンフレットの改訂版に向けた作業を進めている。既存パンフの内容をもう少し柔らかくし、SNS掲載の写真撮影をお願いするとき、名刺代わりになるものが必要な段階になったと思う。これまでの活動でアプローチが届いていない層を想定した改訂版「緩いビラ」だ。例えば「カツオを愛する皆様へ」といった呼び掛けで始まり、分かりやすく、平易な言葉遣いの内容にしたい。当県民会議の連絡先やHPにアクセスできるQRコードも必要だろう。

◇高知城歴史博物館が主催する文化講座との連携について（同）

・高知城歴史博物館（以下 城博）は「日本の文化講座」と銘打った年間講座を開講しており、これまで「日本酒」や「着物」などを取り上げ、各分野の専門家を招いて各テーマの歴史や技術などに関する市民講座を行ってきた。来年度（30年度）は土佐の「海」がテーマ。カツオに関する漁や食文化などを中心にする方針で、当カツオ県民会議と連携した講座は年間6回を計画している。聴講者は定員90人くらいを想定しているようだ。

「日本の文化講座」の内容は、①山内家史料に見るカツオの歴史、②カツオ漁に関する漁具、漁法などの技術解説、③カツオの加工、調理法などを巡る食文化、④カツオ漁の今、将来を後継者問題や流通などの視点から考える、といったものだ。また、これとは別に土佐の「海」がテーマとした事業として、県民会議が関われそうな企画が2回ある。カツオの水揚げがある漁港を中心に「カツオのまち」を取り上げる企画や、カツオ資源問題も含めた総括的な講座だ。県民会議側からも「日本の文化講座」のほか、2つの関連講座も含めて年間計6回を提案している。

この連携企画では会場施設の提供と企画の広報宣伝は主として城博が受け持ち、県民会議は講師役あるいは講師の紹介など、コンテンツを提供するという連携関係だ。

◎各講座の内容を議事録として記録しておくことが大切（西野委員より）

講座の録音を取り、記録として当県民会議と同歴史博物館との共有財産としておくことが必要だと思う。この記録が日本遺産申請の際、審査のポイントとなるストーリーづくりに役立つだろう。ただ、毎回の講座録音を起こし、文書化する作業は多大な労がかかる。この作業が特定個人の負担とならないように当県民会議全体で分担し、それぞれの分科会から要員を出すことを幹事会で協議してほしい。

・高知城歴史博物館（以下 城博）の主催事業であるから、基本的には城博側の仕事ではないか。

→日本遺産申請まで視野に入れると、当県民会議も関与して記録を残し、双方が活用可能な共有財産化することが必ず役立つと思う。日本遺産審査のポイントとなるストーリーづくりが、すべて城博からの借り物では禍根を残すのではないか。イベントや事業をやる時は、やりっ放しではなく、きちんと記録を残しておくことが大切だと思う。労力とその成果物を城博側と県民会議が分け合うという考え方でもいい。

・城博も事業実績として記録は残して置きたいはずだから、一緒にやりませんかを持ち掛けたらどうか。いずれにしろ、城博側の考え方を踏まえた協議が欠かせない。

・録音起こしを専門業者に外注すれば費用はどれくらいかかるのか。その費用を城博と折半するという考え方もある。

→録音時間の多少にもよるが、去年の県民会議シンポジウム程度を想定すれば3万円から3・5万円くらいだろう。

・城博の講座との連携に関する件は、幹事会事務局から各幹事にメール連絡しており、4月10日の幹事会で具体的に検討する課題になっている。記録づくりの関与の仕方について、あらためて提起してほしい。

◇前回からの継続案件

・県内TV局女子アナによるタトゥーシール活用について

（テレビ高知 福島氏から）

5月3 - 4 - 5日に高知市中央公園で「こうち春花まつり」のイベントがある。4日には県内4局の女子アナが揃うステージがあり、ここでキャンペーン「みてみて高知 12(ワンツー) 468 (ヨーロッパ)」の収録を行う予定なので、

社内での検討やさんさんテレビ担当者と協議した。(高知放送とNHK高知放送局の2局とはまだ協議していないが、)結論から言えば、女子アナ4人を勢揃いさせた場面での実現は困難だ。「みてみて高知」のキャンペーン趣旨と異質なものを入れることは無理だという判断だ。また、各局女子アナが一堂に会する日時を5月4日以外で設定するスケジュール調整は極めて困難な上、4日収録の映像を一年間を通して使用するなどの事情もある。

ただ、タトゥーシールが出来上がったときには、ニュースとして紹介することになるから、ここでの紹介や女子アナのブログで取り上げるといったことは可能なのではないかと思う。

・せっかく女子アナ4人が勢揃いするのに何もできないのは何とも残念…。
「12(ワンツー)468(ヨーロッパ)」と切り離れた設定を考えたらどうだろう。

・4人揃った状態で何かするのは難しい事情があるようだが、例えばタトゥーシールが出来上がったとき、夕方のニュースワイドでシールを顔に貼った女子アナが各局一斉に登場するのはどうだろうか。硬いニュースの時は無理だろうが。

・情報系のバラエティ番組で取り上げるのもいいのではないか。大きな効果が期待できると思う

→TV局側出席者(テレビ高知、さんさんテレビ、NHK高知放送局)から、4局の現場の考えも交え、なお協議、検討したい。

◇タトゥーシールの試作品、完成お披露目などについて(共同 西野氏から)

タトゥーシールのデザインについて、6通りのサンプルを用意してきた。今日、一つに決めてもらい、印刷業者(前回分科会で既決)に発注したい。お披露目のタイミングは、先ほどから出ている「春花まつり」でも良いし、ロゴ公募作品の決定時のように県民会議幹部が記者会見し、その当日の夕方のテレビ番組や翌日の朝刊紙面などで紹介してもらえるように働き掛けていきたい。

活用案で今、決まっているのは5月20日の中土佐町「カツオ祭り」が本格的な第1弾になりそう。シールの文言は、「カツオすきやき」を第一候補に考えている。というのは県民会議の普及、浸透の方向として昨年来、議論してきたのは「私たちはカツオが大好き」と思いを深掘りしていこうということだった。「カツオすきやき」はそうした議論を踏まえた延長上にある。

〈メンバーがサンプルを実際に顔へ貼って品評〉→以下、感想 e t c

- ・土佐弁が分からない県外の方はカツオの「すき焼き？、何だろう？」といぶかるところがミソ
- ・よさこい祭りでタトゥーシールを使ったことがあり、踊り子たちには「何これ？」とか「カッコイイ」と人気を集め、多くの踊り子が貼りたいがった。
- ・「カツオすきやき」の文字の下に白色のバックがあれば見やすくなるのでは。
- ・その反面、白色のバックがあるとタトゥーぼくなくなり、バンソコウのようになってしまう。
- ・文字の色に見づらい色がある。赤色と黄色は肌の色に埋没してしまう。

◇「高知カツオ県民会議」のロゴ入りバークボード製作の提案（同）

タトゥーシールのインスタ映えを考えると、背景に写るバックボードがあればイベント性がさらに高まる。ただ、制作費はおおざっぱに言って 10 万円前後かかる。また、普段の保管場所の確保が前提となるので皆さんとご相談したい。当分科会の本年度予算では対応できない。次年度予算での対応になるだろうし、幹事会でも検討してもらおう話になってくる。

ボードを活用するイベントはまず、5 月 20 日の中土佐町カツオ祭りを手始めに「土佐フード祭り」や黒潮町の「戻りカツオ祭り」など、活用の際は年間通して多々考えられる。

- ・ボードの材質はアクリル製、アルミ製などさまざま。ボードを木枠で組んで折りたたみ式にすることが一般的だ。
- ・保管場所に関しては高知新聞放送会館内で何とかなりそう。
- ・屋外イベントになれば、風で倒れない対策を施した作りが必要になる。
- ・イベントへの搬入、搬出など持ち運びが大変になる。
- ・バックボードより、むしろ手軽に持てるサイズのパネルボード、例えば「私たちは高知カツオ県民会議を応援します」といったパネルボードを数多く制作する方が現実的ではないか。すくなくとも運搬や保管場所の問題は解消する。

・これまでの自社イベントなどで使用した経験から言うと、バークボードがあれば発信力、インスタ映え、アピール度は確実に上がる。

- ・イベントの内容によっては、子供連れの親子も多数来る。子供向けの紙芝居でカツオの資源問題を分かりやすく伝えることができれば、それがフェイスブックなどの SNS で発信されていくことが期待できる。
- ・写真撮影でシールのアップもバークボードも映し込むのは難しいという問題がある。

・バックボードは「インスタはここでやってますよ」という場所を明示することが第一。加えて情報発信の拠点場所としてのイベント参加の象徴性を持たすことに意味があるのではないか。

・イベントに参加した人たちは、参加の証（あかし）となる写真を撮りたがる。例えば、高知龍馬マラソンではレース後に会場周辺のブースに行列ができていたのは、自分の完走タイムがバックボードに表示できるパネル設置のブースだった。工夫を凝らしたバックボードは人を集める。

◎タトゥシールはロゴマーク入りの「カツオすきやき」に決定。色は視認しやすい色使いに修正する。バックボードは製作する方向でなお検討。どんなボードにするか、デザイン案がある程度固まってきたら、分科会メンバーと情報共有する。

◇当県民会議のロゴをどう浸透させていくかについて意見交換

・県民一般へのロゴ認知度はまだまだ浸透していない。現状は知らない人が多い。どんな使い方をしていくのか、それぞれのメンバーが、自社の事業活動などでロゴを使える場面や可能性を考え、智恵を絞ってもらいたい。

・会員企業の中には、食品会社経営者が使い方の検討を始めたり、飲食業関係者が店内のメニューにシールを貼りたいといった声がある。

・それぞれが勝手に使用するわけにはいかない。ロゴ使用に当たってのルールづくりが必要だ。

・食品スーパーの鮮魚売り場に、例えば「私たちは高知カツオ県民会議を応援しています」といったロゴが入ったポップを置くことはできないか。

・名刺に使う場合、フォームを統一し、後はそれぞれが自分の名刺にシールを貼るといった使い方もあると思う。

・使用に関しては過度に縛りを掛けず、届け制にして幹事会の承認を得るようになればどうか。

→使用する字体、色、ポップなどがばらばらにならないように一定の統一した使用ルールが必要。次回幹事会（4/10）に諮る。

◇フェイスブック用の写真撮影に関する活動報告（日和崎委員より）

「土佐のおきゃく」のイベントで「私たちは高知カツオ県民会議を応援しています」というボードと当県民会議のパンフレットを使い、街ゆく人たちにフェイスブック掲載を前提にした写真撮影の声掛けを行った。写真を撮る際には

カツオ県民会議のパンフを手渡して趣旨説明をし、公式なフェイスブックに載せることに「いいですよ」と承諾を得られた人を撮影した。応じてくれる人は意外と多かった。一人で声掛けするより、複数でするほうが反応が良かった。写真撮影もフェイスブック掲載も嫌な人はその場で断られた。

そうやって撮りだめした写真をその日以降、毎日アップしてきたが、「いいね」の反応が1日10件前後しかないのが寂しい。メンバーの方は「シェアする」をぜひお願いしたい。

- ・フェイスブックによって多くの若い人たちが登場し、HPの雰囲気ガラッと変わった。
- ・タグを付けて発信してはどうか。友達の友達へと確実に広まっていく。タグ付けは簡単にできる。

◎ただ、フェイスブック掲載を前提とした写真撮影には肖像権の問題があることを理解し、メンバー全体で共通認識を持っていなければならない。(お客さんとの交流活動でSNSを活用している企業の事例報告から)

HPやフェイスブックに掲載した後、本人や家族からクレームが来てトラブルになることを避けるために「HPやフェイスブックに使いますが、よろしいでしょうか。よろしければ、サインをお願いします」と一筆いただくようにしている。タグ付けをすると友達にもみんなにタグが付く。それを考えると、個人、団体であっても今後は承諾のサインをもらった上で撮影、掲載した方が良い。

特に子供たちの場合は学校側から厳しい対応が求められており、承諾が不可欠。それがあってはじめて撮影、掲載が可能になる。学校に対しても、子供たちに対しても口約束だけではない承諾のサインが必要な時代になっている。

- ・承諾のサインを求めると、写真撮影に応じてくれなくなるのではないかな。
- ・少なくとも撮影するときは、県民会議のパンフレットやそれに代わるようなものを渡すようにしなければ。こちらの連絡先などを明記したものが必要だろう。

◇FM高知のラジオ番組からの出演打診について

(幹事会事務局・奥代氏より)

エフエム高知が毎週月曜日13:30から放送している30分番組「吉田類の類語録」の吉田類氏から、カツオの話題や県民会議の活動について同番組で話を

してくれる人がいないか、幹事会事務局に出演の打診があった。4月5日の夕方3時か4時ごろから、エフエム高知のスタジオで収録を行う予定だ。(会長代理の)受田先生と相談したところ、情報発信分科会で検討してもらいたいということだった。

→黒笹慈幾委員と日和崎守委員を推薦する。

◇高知新聞厚生文化事業団の助成金申請結果について(宮田座長より)

前回報告があった高知新聞厚生文化事業団の助成金申請は、選考委員会での審査の結果、当県民会議への助成が決まった。助成額は20万円。

◇分科会会計の29年度収支報告について(分科会事務局 松島より)

配布した収支報告書に沿って説明。幹事会から支給された収入予算10万円に対し、支出額は計33,194円(3月26日時点)。剰余金66,806円は次年度への繰越金とする。本日26日以後に予定がある支出は、タトゥーシールのデザインを依頼したデザイナーへのデザイン料(1万円)がある。ロゴデザイン公募とこれに伴う商標登録にかかる経費は、幹事会予算からの支出で既に処理されている。

◇総会(4月17日)にカツオ研究者の二平章さんをお呼びして話を聞いたらどうかという案が前回の分科会で出ていたが、(会長代行の)受田先生と検討した結果、調整すべきことがあるため今回の総会では見送ることになった。

◇**新規入会希望に関する情報**

- ・四国電力高知支店が入会したい意向だ。久松副座長からの紹介だが、幹事2人の推薦が必要、もう一人の推薦人は竹内太一副座長とする。
- ・ニッポン高度紙工業も入会を希望している。

◇**4月の分科会は休会し、次回分科会は5月を予定。**日程調整が整い次第追って連絡する。4月は幹事会(10日)、総会(17日)と続くための措置。

以 上

第9回情報発信分科会 出席者 2018/3/26 於：司

出席 17 欠席 24 懇親会出席 11

座長	宮田 速雄 (高知新聞社代表取締役社長)
副座長	竹内 太一 (加寿翁コーポレーション代表取締役社長)
副座長	久松 朋水 (株式会社太陽 代表取締役社長)
	西野 秀 (共同通信高知支局長)
	木下 正章 (さんさんテレビ報道制作局次長)
	福島 和彦 (テレビ高知報道技術センター次長)
	日和崎 守 (J C 青年会議所理事長)
	北澤 和彦 (NHK高知放送局長)
	小野川義人 (ほっとこうち代表取締役会長)
	黒笹 慈幾 (南国生活技術研究所)
	木村 雅男 (ANA高知支店マネジャー)
	大倉 広邦 (酔鯨酒造)
オブザーバー	出水 佐知 (サニーマート営業企画部)
取材	福田 仁 (高知新聞社)
幹事会事務局	松岡 洋介 (高知広告センター)
幹事会事務局	奥代 智 (同)
分科会事務局	松島 健 (高知新聞)

以 上